

令和3年度 評価計画及び自己評価

(計画・中間 **最終**)

白 岳 中学校区 校番 3 学校名 呉市立白岳中学校

a 学校教育 目標	夢や目標に向かって粘り強く 頑張る生徒を育てる —夢や目標への自律的挑戦—	b 経営理念 ミッション・ビジョン	<ミッション>(学校の使命) 知・徳・体の調和がとれ、主体的に生きる力を備えた生徒を育成することで地域社会に貢献する。 <ビジョン>(将来の学校像) 保護者や地域から信頼され、生徒が安全に安心して生活し、自律して学ぶことのできる学校を目指す。
--------------	---	----------------------	--

c 中期経営目標 (進捗状況)と今年度の重点	現状: 全体として規範意識は育ちつつあり自尊感情も上昇傾向にあるが、一部に規範意識の薄い生徒がいる。 学力は定着しつつあるが、二極化の傾向にある。地域との関わりが、薄い。 重点: 1 「学び合い」を大切に「課題発見・解決」型の授業づくりを進め、主体的に学び、考えを深め合うことで、学力の向上を図る。 2 健やかな生活のなかで規範意識を身につけ、問題の解決に向けて実践できる生徒の育成を図る。 3 学習、部活動、行事の取組において、進路についての展望を持たせ、「夢や目標」に向かって努力する生徒を育成し、その過程で自尊感情を高める。 4 業務改善を推進し、教職員が生徒と向き合い、自らの意欲と能力を発揮できる環境を整備する。
---------------------------	--

育成を目指す資質・能力	知識・技能 思考力・判断力・表現力 学びに向かう力・人間性
-------------	-------------------------------

評価計画(中期経営目標を設定してから 1・2・③年目)					自己評価							
重点	d 中期(3年間)経営目標	e 短期(今年度)経営目標	f 目標達成のための方策 (こんなことをして達成します)	g 指標 (効果を見とる目安)	h 目標値	上半期			下半期			
						i 達成値	j 達成度	k 評価	i 達成値	j 達成度	k 評価	
確かな学力	基礎的・基本的な知識・技能を習得させ思考力・判断力・表現力の育成を図る。	費 生徒が主体的に学ぶ授業づくりを行う。	互いの考えを深め合う場면을効果的に取り入れることで、「学び合い」を大切に授業づくりを進める。	ペア・グループ活動等で、他者とのかかわり合いを通して理解を深めることができたと言える生徒の割合	80							
			学年体制で、定期試験前・夏季冬季休業中に学力補充を行う。	分からないことを分かって努力する生徒の割合	90	90	100	A	90	91	A	
			学習観をレベルアップさせ、自律した学習者を育てる。	JCノートの提出率	85	95	100	A	85	94	A	
				学習観レベルアップ講座・学習観レベルアップチェックを通して、学び方を改善させ、予習・復習を充実させる指導を行う。	学び方を意識して、学習に取り組んでいる生徒の割合	70	68	97	B	70	67	B
				学年×15分以上家庭学習(塾も含む)を行う生徒の割合	80	82	100	A	80	78	B	
		朝読書を徹底する。	学校推薦図書を1ヶ月に1冊以上読む生徒の割合	80	78	97	B	80	79	B		
豊かな心	話し合い活動の中で自己決定能力を高め、規範意識を身につけ、認める・ほめる指導により、自尊感情を高める。	買 レールやマナーなど規範意識を身につける指導の徹底を図る。	学習規律、生徒指導規程等のルールを周知し、守らせる。	ルールやマナーを守っている生徒の割合	92	99	100	A	99	100	A	
			自らの意見と他者の意見を比較し、その中で考えを深め、自己決定できる指導を行う。	夢や目標に向かって努力している生徒の割合	80	82	100	A	80	100	A	
				自分の良さは周りの人から認められていると答える生徒の割合	70	70	100	A	72	100	A	
			キャリア教育を充実させ、明確な夢や目標を持つ生徒を育成する。	部活動に満足している生徒の割合	80	91	100	A	91	100	A	
				学習、部活動、行事に目標を持たせ、認める・ほめる指導を行い、自己有用感を高める。	体育大会、文化活動発表会に満足している生徒の割合	85	91	100	A	85	100	A
				生徒会主体の無言清掃を促進する。	自分なりに考えて掃除ができた生徒の割合	80	94	100	A	94	100	A
業務改善	教職員が自らの意欲と能力を発揮できる教育環境の整備	児童生徒と向き合う時間の確保	会議時間の短縮、分掌における業務削減を図る。	生徒と向き合う時間が確保されていると感じる教員の割合	85	81	95	B	85	100	A	
		長時間勤務の削減	週1回の定時退校の徹底し、部活動休養日の定着させる。	時間外勤務が月45時間以下である教職員の割合	100	75	75	C	80	80	B	

[k:評価]
 A:100≦(目標達成) B:80≦(ほぼ達成)<100
 C:60≦(もう少し)<80 D:(できていない)<60